

先人の知恵から

19

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

故事・ことわざ辞典は、我が家に幾つかあるが、世界のことわざ辞典というのもあり、読んでみると中々面白い。世の中、どこに行っても、同じような行動があり、同じような戒めがあり、同じような言い伝えがあるものだと感心する。例える物がその土地特有の物だったりするのも面白い。皆さんも読んでみてはいかがだろう。

今回は、き行から次の8つを挙げてみた。

- 窮^{きゆう}すれば通ず
- 窮^{きゆう}鼠^そ猫をかむ
- 笈^{きゆう}を負う
- 兄弟は他人の始まり
- 兄弟は両の手
- 今日の一針、明日の十針^{とほり}
- 今日^{けふ}は人の上、明日は我が身の上

<窮すれば通ず>

行き詰ってどうにもならない状態にまで追い込まれると、開き直すなどして、案外解決の道が開かれて何とかなるものだという事。「窮しては通ず」ともいう。
出典 易経^{えいききょう}

「四面楚歌^{しめんそか}」という言葉があるが、人間行き詰ると視野が狭くなり、どんどん自分を追い込んでしまうことが多々ある。ちょっと離れて自分を見ることができれば、案外抜け道を見つけられるものだが、当の本人は目の前の壁しか見えない。

新米ママによくみられるのだが、赤ちゃんが泣いたときに、お腹が空いたのかとおっぱいやミルクを飲ませてみてもダメ、おしめを換えてもダメ、抱っこしても泣き止まないとなると、もうどうして良いかわからず、

叫びたくなるし逃げたくなる。そういうものだとわかっている、やはりその場になるとどうにもならない。そんな時に、この諺を伝えることがある。開き直って、「いいや、泣かせておこう」と思ったとたんに案外早く泣き止んだりする。「あれこれやってもあれだけ泣き止まなかったのに、なんで？」と思うだろう。むしろシタバタするから、物事が進まなくなるということはよくある。じっくり座って、「先ずはお茶でも一杯」そんな気持ちの余裕ができると、物事の解決策が見えたり、思わぬ展開になったりするものである。

英語では・・・

A hungry man smells meat afar off.(空腹の人には遠くの食べ物も匂う)又は Necessity is a hard weapon.(必要は頑丈な武器である)

<窮鼠猫をかむ>

弱いものでも絶体絶命の窮地に追いつめられると、強いものに逆襲することがあるという例え。追い詰められたネズミが、逆に必死で猫に噛みつくという意から。「^{きゅうそ}窮鼠^{かえ}反って猫を噛む」ともいう。

出典 ^{えんてつろん}塩鉄論

先日相談中の母親から聞いた話。まだ小さい妹がお姉ちゃんからいつも意地悪されていて、母親も気にしていたのだが、ある時お姉ちゃんに向かって行って、噛みつき、お姉ちゃんが泣いたという。

「『窮鼠猫をかむ』ですね。」と言ったら、

「何ですか、それ？」と聞かれた。その方は学校の先生だったが、この諺はもう一般的ではないのかと驚いた瞬間だった。

どんなに弱いと思われている人でも、余り追い詰めれば何をするかわからない。特に、自分を出さず、ひっそりと耐えていると、ある時膨らみ過ぎた風船のようにはじけて、周りがびっくりするような言動をとることがある。

最近の子どもたちは、とても良い子が多く、周りの子と上手くやろうと自分を出さないし、保護者に対しても気を使っていたりする。こんなことを続けていけば、当然何処かに怒りや辛さをため込むわけで、苦しみ風船がどんどん膨らむ。

風船を破裂させないようにと、無意識にかなりのエネルギーを使っている子も見かける。

いじめられっ子の逆襲や、良い子の大きな問題行動など、「窮鼠猫をかむ」言動にならないよう、追い詰めないよう、周りの大人が注意を払って行かねばならないし、子どもたちにも、我慢のし過ぎは良くないことを伝えていきたいものだ。

英語では・・・

Despair makes cowards courageous.(絶望すると臆病者も度胸がすわる)、A baited cat may grow as fierce as a lion.(犬にけしかけられれば、猫もライオンのように獰猛となる)

<笈を負う>

勉学のため、郷里を出て遠い土地に出か

けること。遊学すること。本箱を背負う意から。笈とは背に負うように作った本箱のこと。出典 史記

「可愛い子には旅をさせよ」という諺は以前に紹介したが、生まれ育った土地ばかりにいては、知識は広がらない。例え東京にいて、すべての中心にいるように思っている、世界は広い。様々な地域に足を延ばし、その目で見、肌で感じ、話を聴くことで、自分が如何に小さな存在であったかに気づくものである。

子どもが大学に行く頃になると、家から出たい、一人暮らしをしたいという子がいるが、金銭的な理由もないのに、心配だから家から通ってほしいと引き留める保護者も多い。

北海道から東京に行くだけでも、「危ない」と思う親はいるだろう。まして海外などと言ったら猛反対する。しかし、若いうちに、感性が柔らかいうちに、違う文化、言語、風習に触れることはその後の人生を豊かにすると思う。

もちろん、海外でも危ないと言われている場所に行くことはない。そこまでしなくても、異文化に触れることはできる。

「笈を負う」という諺を知らない人の方が多いだろう。今時中々「遊学」という言葉も聴かないが、文字通り「遊学」を勧めたい。

<兄弟は他人の始まり>

仲良く育った兄弟も、それぞれ成長し、独立して自分の家庭をもつようになると、

疎遠になって他人同士のようにになっていくということ。「兄弟は他人の始め」ともいう。

兄弟というのは不思議なもので、仲の良い兄弟もいれば、すごく仲の悪い兄弟もいる。仲の悪い兄弟では、その保護者の対応に差があることが多い。上の子ばかり大事にされた、上の子ばかりにお金をかけて自分は我慢させられた、などという話も聞く。兄弟間差別は今では虐待の中の一つとされてもいるくらいだ。こうした差別は、生涯にわたってずっとシコリとして残ってしまう。

しかしそういう差別などがなくても、仲の良かった兄弟が、それぞれ結婚し、所帯をもってからは、お嫁さん同士の関係が上手くいかなかったり、遠くに住んだりということで疎遠になることはある。

血の繋がった兄弟であっても、大人になるとお互いに距離をとることもあると知っておけば、そうなった時に恨んだり、怒ったりしなくて済むのではないだろうか。家族というのはくっついたり離れたり、その時々で個別の家族の状況によって変遷していくものだ。

<兄弟は両の手>

兄弟は左右の手のように、互いに助け合わなければならないという教え。「兄弟は左右の手の如し」ともいう。

前述の諺とはちょっと違った意味の兄弟に関する諺である。「親はいつまでも生きてはいない、親亡き後、兄弟同士、助け合っ

ていきなさい。」という親の想いを表している。

右手と左手、両方の手があれば、色々なことができる。片手だけでは不自由なことも多いことから、助け合っという意味合いになるだろう。兄弟は二人とは限らないし、もっと多かったり一人っ子ということもある。兄弟がいることで、良いことも悪いこともあるかもしれないが、お互いに助け合える兄弟になれるよう、親は育て方に気をつけなければならないのかもしれない。

<今日の一針、明日の十針>

わずかな手間を惜しんでやらずにいと、後で余計な苦労が増えるということのたとえ。今日なら一針縫えば済むほころびも、明日になれば広がって、十針も縫わなければならぬという意から。

この諺は、自分への戒めも含め、特に片付けない子、片付けが苦手な子に伝えている。使ったものは元あったところに戻すというのは、簡単なようで中々できない人が多い。元あったところに戻っていれば、探すことも無いし、散らかることも無い。しかしこれができないために、物が散乱し、探し物が増える。これは自分自身にも当てはまることで、つい、そのまま出っぱなしにしてしまうことが多々あるため、片付かない。物を探していることも多い。

また、夏休みの宿題や勉強などにも同じことが言える。毎日少しずつやっ行って行けば終わるのに、今日やるべきことをサボれば明日にそのしわ寄せがくる。今日のことは

今日やるようにしていると、何か不測の事態が起きても慌てないで済む。

面倒くさがらずに、今の一針をきちんと縫っていくことで、後の苦労を減らすことができる。

英語では・・・

A stitch in time saves nine. (適時の一針は九針の手間を省く)というアメリカの政治家フランクリンの有名な言葉に基づく。

<今日は人の上、明日は我が身の上>

人の世は不安定なものだから、他人の災難をよそ事として見過ごさず、用心しなければいけないといういましめ。今日は他人のことだと思っていた災難も、明日は自分のこととなるかもしれないという意から。「今日は人の身、明日は我が身」ともいう。

略して「明日は我が身」ということもあるが、いつも他人事と見過ごしていると、いつか自分の身に降りかかることもある。

日本は地震の国なので、地震災害、火山災害、津波などの自然災害は、「もしかしたら」という思いがあるだろう。しかし、東日本大震災があったときは、過敏すぎるほど気にしたのに、7年も経つと、その怖さ、危機感が薄れ、自分の身には起こらないと思っている人も多い。南海トラフ巨大地震や北海道南西沖地震の可能性について、つい最近80%という確率を出したことは、今一度注意を呼び覚ます良いきっかけになったかもしれない。

火事や交通事故も含め、世の中には様々

な事件事故がある。自分の身に降りかかっていないのは、むしろ幸運なことだと思い、用心して生きることも大切。但し、用心し過ぎては元も子もない。程々に用心することが大切だろう。

英語では・・・

I to-day, you Today you, tomorrow me.(今日はあなた、明日は我が身) 又は Laugh before breakfast, you'll cry before supper.(朝食前に笑うものは夕食前に涙するであろう)

出典説明

^{えききょう}易経・・・周代の占いの書。儒教の五経の一つ。今日文とその解説書の「^{じゅうよく}十翼」を合わせて十二編よりなる。陰と陽を組み合わせて八卦、これを重ねた六十四卦によって、自然と人間の変化の法

則を説いた所で、中国の哲学思想の元になった。作者として、周の^{ぶんおう}文王、周公、孔子が挙げられるが、確かではない。

^{えんてつろん}塩鉄論・・・十卷六十編

前漢時代の経済政策の書。前漢の儒者^{かんかん}桓寛の編者。^{ふてい}武帝が財政難を打開するために行った塩・鉄・酒などの専売制度を存続させるかどうかについて、^{しょう}昭帝の時に諸国から集められた学識者と官僚たちが討論したことをまとめたもの。当時の政治・社会・経済などを知るための重要な文献。